

午前の部

●市民

針葉樹はこのチップ化に適さないのか。

◆兵庫県

針葉樹は、全国的に事業化されている。

●市民

県有林の中に針葉樹は沢山ある。針葉樹の根元には全然腐葉土はなく、保水力が弱くなっている。大規模な崩落事故も起きている。広葉樹の再生は大事だが、針葉樹を切って、広葉樹を生やしていくことも考えていただきたい。伐採については、ナラ枯れが非常に進んでいて、チップ化に適さないかもしれないが、ナラ枯れの木も刈ってもらいたい。また、伐採する木の中には、椎茸の原木として、非常に有効な木が沢山ある。それをチップ化したらもったいない。西谷地区で原木椎茸を栽培されている方がいるが、最近、原木の入手が非常に難しくなっている。そのため、伐採した木の中で、椎茸の原木として利用させてもらえれば、山が良くなること以外に、地元之恩恵があるのではないか。椎茸の原木として、安い値段で提供してもらえたら、事業する方も喜ばれると思うので、よろしく願います。

◆兵庫県

まず針葉樹については、兵庫県では但馬でも実績があり、当然、針葉樹の伐採とチップ化も含めてこの事業は進めていく。ただ、広葉樹に比べて針葉樹は油分が多く、パッと燃えて温度は上がるが、時間的には比較的早く消える。一方、広葉樹はじわじわ燃えるという特性の違いがあると聞いており、例えばうまくブレンドするとか、方法もあるかと思う。

次に椎茸の原木については、これは検討したい。チップ化よりも、薪、あるいは、椎茸の原木として使う方が高い価値が付くかもしれない。事業者も地域への還元を考えていくとのことであり、チップ化以外についても視野に入れて検討していく。

●市民

上佐曾利は県有林がない。そういう地区の山については、将来的にも対象外なのか。もう一点、県の砂防ダムの上の部分は県の保安林になっているが、保安林は切れないと思うがどうか。

◆兵庫県

まず2年間、実証実験としてこの事業を実施する中で、採算性なども踏まえて、その後の展開として民有林も含めて実施するかということも、検討の中にも入ってくると思っている。砂防ダムの上の保安林については、良い方法がないのかということを検討していく必要があると思っている。まずは小さくスタートを切っていくことを考えているので、場所については、今後、ご意見を寄せていただければと考えている。

●市民

バイオマスラボは神戸市北区につくると説明があったが、神戸北区であれば運搬も大変であ

るので、雇用が生まれるといったメリットのためにも、西谷地区に設置するということはできないのか。

◆兵庫県

バイオマスラボは、国関係団体の補助金を受けて実証実験するものであり、決められた期間の中で実施するという制約がある。事業者は、最初西谷地区での設置を進めていたが、市街化調整区域であり、開発の手続きに時間がかかるということで、残念ながら神戸市北区で場所を確保したという状況である。

●市民

私は徳島県まで行き、事業者の事業所を視察をしたことがある。木質ボイラーは沢山のチップを消費すると思う。木が沢山切られると西谷の山はどうなるのか。西谷の山は、特に春は沢山の花が咲き、美しい。機械的に木が切られて、山が寂しくなるということはないか。

◆兵庫県

この事業は、チップ燃料を作るために伐採をするというより、地域循環共生圏構築の中で森林を資源として上手く使っていく、また、森林の整備をしながら使っていくことが趣旨であるので、森林を大きく切り開いて丸裸にするということは考えていない。どういう切り方がよいのか、森林を整備し、管理する切り方はどうなのかということ、今詰めて検討しているところである。山が寂しくなるという心配はないと考えている。切ってはいけないところや切り方のご提案があれば、是非お聞かせいただいで、ご相談させていただきたい。

◆兵庫県

補足をさせていただく。帯状に伐採すると資料説明したが、それは伐採区を交互にし、半分はしっかり樹木を残すという切り方だが、そうするかどうかも今検討中である。一般的な間伐は大体3割ぐらいを目安に切るもので、帯状ではなく、全体として間引くという切り方も考えられるため、木の切り方については、現在、森林の所管課と協議しているところである。

先ほど指摘あったナラ枯れについては、何十年も育った大木のコナラなどにカシノナガキクイムシという虫が入って、中で菌を増やして水が上がらなくなって枯れてしまう。その虫は大きくなった木が好みである。そのため、大きくなった木を切って、また新たな木が育っていき、20年ぐらいのサイクルでまた木を切って、使っていくという循環である。大きい木は切って、利用して、カシノナガキクイムシによるナラ枯れにならないようにすることは、環境によいと思っている。なお、松に松食い虫が入るとほとんど枯れてしまうが、ナラ枯れの場合は、大体3～5割は枯れるのだが、半分ぐらいは生き残る。生き残った木は耐性が付いて、次に虫が来ても生き残れるようになっている木もあると聞いている。また、景観については、例えば大好きな桜の木があるので、切ったら困るというような情報は皆さんから教えていただいで、対応したいと思う。

●市民

では、丸山湿原の管理のような感じでやっていくということか。

◆兵庫県

丸山湿原には豊かな湿原の生態系があり、管理のための人の手は最低限であろうかと思う。県有林の場合は、もっと人の手が介在した形にはなるが、切り過ぎにならないようにし、適時、地域とやり取りしながら、実施していきたいと考えている。

●市民

地域とやり取りする機会があるということか。地域の山に入るときには、その自治会長に声をかけるとか。

◆兵庫県

一つの自治会に関係する山から切っていく形になると思うが、これから調査をし、切り始める場所が決まったら、該当する自治会に改めて説明する形になると思う。ただ、西谷地区全体の話として検討、意見交換の場が必要だということもあると思う。2月の自治会連合会会長で話をさせてもらったが、そういう形がいいのか、別の形がいいのか、それはこれから相談させていただく。

●市民

西谷地区には、伐採に関わりたいという人もちらほらいる。また、西谷地区における事業の事務所の設置は諦めたと聞くが、雇用が生まれるなどのメリットはあるのか。

◆兵庫県

実際に伐採が開始され、上手く進んでいったときに、伐採に関わりたいという声があれば、考えたいと思う。また、西谷地区としてもっと積極的に関与していただけるといっているのであれば、別途お話をお受けしたいと思う。

●市民

意見はどこへ言えばよいのか。

◆兵庫県

兵庫県の温暖化対策課が窓口である。

●市民

西谷地区のメリットとして、木質バイオマスが利用される何か施設ができれば、循環していることが分かりやすくてよい。西谷地区の人に加えて、市内の人でも利用できればよい。

◆兵庫県

広葉樹林を伐採して、チップ化するという事例はまだ全国的にない。だからこそ、事業者も国関係団体から補助金を受け、これからの2年間、実証実験という形で実施する。本当に事業が上手くいくかどうかは、やってみないと分からない。今の段階で申し上げることができるのは、将来的にそういったシンボリックな施設ができればよいということも、頭の中に置きながら進めるということである。

●市民

徳島県の事業者の事業所を見学したとき、実験的ではあるが、木質バイオマスを活用した家庭用の風呂を見てきた。そういう可能性もあり、メリットも起こると思うので、頑張って進めてください。

◆兵庫県

心強い応援のご意見に感謝する。これからの2年間でしっかり、安定的に森林を管理し、チップを供給できるというところを示した上で、その先には、地域の雇用につながるような内容を協議しながら、仕事につながっていけばよいと思っている。まずはしっかりチップの供給体制をつくりたい。広葉樹林活用の供給体制は、全国にもない取組なので、そこをしっかりと築き、その次の将来的な部分についても、地域の皆さんと一緒に考えていきたい。

●市民

提案であるが、伐採のための作業用道路をつくるということで、県有内に一般道路ではないが、道路的なものができるということで、それを、サイクリングやクロスカントリーのロードに活用できないか。20年サイクルで伐採するというので、毎年、道が延長され、最終的には何十キロかの道ができるだろうと思う。20年と先の長い話かもしれないが、西谷の森公園や宝塚市立自然の家が、県有林に隣接しているので、そこからスタートして県有林に入って、例えばクロスカントリーのレースを開く、安全の問題や色々な壁はあるとは思いますが、そういうことも活用方法の一つではないかと思う。せつかく費用をかけて事業をするなら、開設した林道を観光資源として活用すれば、一石二鳥になるのではないか。

◆兵庫県

将来、林道を整備した形で活用することも考えていきたい。針葉樹の人工林の林道は、キャタピラが付いている大型の林業機械が通れるものだが、本事業では、小型の林業機械が通る道をつくるので、道幅では難しい面もあるかもしれない。しかし、少なくとも人が山を散策できるような遊歩道には使っていけると思う。その森林整備がある程度進んで、次のエリアに行ったときの残った道について、有効活用できる可能性は十分あると思う。

●市民

椎茸の原木、茶道用の黒炭、チップ燃焼後のミネラルを含み植物の成長に役立つ灰、他には木酢液など、事業に伴って有益な産物が生み出せると思う。色々な案がある。何とか考えてほしい。

◆兵庫県

川西市の黒川地区は菊炭が特産で日本一の里山と言われている。西谷地区も同じ北摂里山地域循環共生圏なので、黒川地区のように炭を広げていきたいという気持ちは持っている。そういったことが実現するよう、一緒に取り組んでいただければありがたい。

●市民

説明資料のP10の説明を受けて質問する。まず、帯状に伐採すれば、水が流れやすいとか土砂災害の心配はないか。また、今でもイノシシやシカの被害が出て、皆さん困っている。伐採しても、また、芽が出てくるということだが、そのことで、今以上に獣害が増えないか。

◆（一社）徳島地域エネルギー

土砂災害は防ぎたいと考えている。伐採では、大きな木だけ切り、小さな木は残すつもりである。そうすると光が入り、草が生え、小さな木も成長するので、森林が守れる状態になるよ

うな方法であると考えている。恐らく今の山の状態は40～50年間、ほとんど人の手が入っておらず、非常に過密な状態であると思われる。私は徳島県庁で林業の仕事してきた。山を若返らせるためには人の手を入れることが必要というのが50年間の結論である。ただし、自然相手なので絶対とは言えないが、努力をしながら、山が安全になるよう努めていきたいと思っている。

獣害についても、配慮すべきことだと思っている。ただ、これも実際に木を切ったことによって獣害がどうなるのかということ、はっきりとは分からないとしか言いようがない。ただ言えるのは、長年林業をやっていて、獣害が増えているのは、人が山に行かなくなったせいではないかと考えている。人が山に入ることによって徐々に、シカやイノシシはその生活圏では居心地が悪くなって、獣害は徐々に減っていくと思う。しかし、その前段階としては、里に逃げてきたり、他へ行ったりする可能性もあるが、続けていく必要がある。そういう中で、地元の猟友会の皆さんなどのご協力を得て、徐々に捕獲頭数も増やしていく。動物に関しては、はっきり分からないことがあるが、何もやらないより、地域の皆様と一緒に、獣害を防げるよう前向きに取り組み、協力させていただきたいと考えている。

◆兵庫県

家のすぐそばまで森林がきていると、獣は出やすい。バッファゾーン（緩衝帯）として、森林と里山の間の木を切って、獣が身を隠すところをなくすという管理はしてきた。兵庫県には県立の森林動物研究センターという全国的にもトップレベルの研究機関があり、県下の獣害の状況などをモニタリングしていて、獣害対策のノウハウを蓄積している。本年2月にシンポジウムがあり、本事業の一環である獣害対策について、助言してほしいと頼んだところである。獣害対策は、試行錯誤があるかもしれないが、県としてもバックアップをしっかりとしていきたいと思っている。

●市民

資料のP4で分からないところがある。2050年二酸化炭素排出実質ゼロを目指すとはよく聞く。実質ゼロということは、二酸化炭素は実際は出るのだけれど、マイナスもあり、ゼロになるという考え方と思われる。このバイオマスをボイラーに使うようだが、このチップボイラーと今の石油、化石燃料のボイラーのCO₂排出量の比較を知りたいのだが、数値は提示できるか。

◆兵庫県

今、資料を持ち合わせていないが、チップボイラーのCO₂排出量はゼロカウントになる。木は、光合成をしてCO₂を空気中から吸収して、酸素を出し、炭素を幹の中に蓄えて太くなっていく。空気中のCO₂を吸った分が木の中にストックされているということである。そのため、CO₂を吸収している時点ではカーボンマイナスになり、ストックした分を燃やすとCO₂が排出されるが、吸収した分がゼロに戻るため、木質チップはカーボンニュートラルな燃料ということになる。そのため、石油ボイラーとチップボイラーのCO₂排出量の比較ということであれば、今までの石油ボイラーのCO₂排出量がそのままゼロになるということである。

●市民

そういう意味で実質ゼロというのはよく分かるが、実際に、化石燃料ボイラーであれば煙やCO₂がこれだけ出る。チップボイラーであれば、同じ温度上げるために、だいたいどれだけ出るといふその数字を教えてほしい。同じ温度に上げるためにどれだけ煙やCO₂を出すのかという比較はされてないのか。というのも、効率は石油ボイラーの方がよいのではないかと思っ

◆兵庫県

今、手元に資料がなくではっきり言えないが、輸送に伴うCO₂排出量なども含めたトータルで考えると、化石燃料を使用するときより約50%のCO₂が削減されるというデータがある。木質バイオマスも、木を切るときや運ぶときに、重機や輸送トラックを使ってCO₂が出るが、そういう排出も全部含めて考えると、木質バイオマスのCO₂排出は化石燃料の半減ぐらいというようなデータもある。

●市民

化石燃料は地下にあるが、空気中のCO₂を吸い込むため、地上にある木質チップは出発点が違うという説明だと思うが、それを抜きにして、単純に、同じ温度に上げるために、そのときにどれだけCO₂が出るのかという数字があると思う。例えばこの部屋の温度を10℃上げるために、石油ストーブであれば50ℓ必要だけれども、木質バイオマスであれば、どれぐらいの量で10℃上げられるのか、そういう数字を教えてほしい。

◆（一社）徳島地域エネルギー

同じ温度に上げるために、木材を燃やした場合と石油を燃やした場合に必要な重量を比較すると、だいたい木材は石油の倍必要になる。木材は石油の倍の重量を燃やして同じ熱量ということになるので、それだけ木材の熱の効率は悪いと言える。

●市民

理解した。ゼロカーボン、カーボンニュートラルという国の方針があつて、県もそのために苦勞し、苦肉の策という取組だと思うのだが、やはり先ほどからお尋ねしている数字を示してほしい。単純に言うと、石油ボイラーとの比較は別にして、木質チップを燃やすと実際には、今まで以上にCO₂が出るのではないのか。

◆（一社）徳島地域エネルギー

重量は木材の方が倍になるが、そのときに実際に排出されるCO₂量は、石油と木材は同じである。木質チップの場合は、石油の倍の重量を燃やさないといけませんが、CO₂排出量は同じである。例えば2トンのチップを燃やしてCO₂が1トン出るとしたら、灯油の場合であれば1トンを燃やしてCO₂が1トン出る。燃えたときに出るCO₂は同じ量だが、燃やす重量が倍かかる。そういう意味では、木質チップは効率が悪いという説明である。

●市民

理解した。ただ、そのようなデータがこの資料に付け足されれば、分かりやすいと思った。

◆兵庫県

本日のこの説明会の質疑については、整理した形で、おそらく市のホームページに掲載されると思うので、もう少し分かりやすく説明を付けていきたいと思う。(市ホームページに資料「バイオマスボイラーについて」を添付しています。)

●市民

これから2年間の実証実験で木質ボイラーの普及を図るとのことだが、活用される事業者は、確保されているのか。というのも、2年間で失敗すると、そのボイラーを導入した事業者はチップを確保できず、ボイラーを使えなくなるのではないか。また、この事業の失敗も想定した上で、866ha(帳簿では710ha)あるこの県有環境林を、兵庫県はどのように活用する考えなのか。将来ずっと環境林として県が管理をされるのか知りたい。

◆兵庫県

ボイラーの供給先については、事業者は、潜在する需要調査は既に行っており、ゴルフ場などに説明に伺っている状況である。実際に使う場所の1つは神戸市北区のバイオマスラボである。仮に事業が2年間で終わったとしても、事業者は木質ボイラーとチップの供給を全国区で行っており、ネットワークがあるので、木質ボイラーを導入した事業者が困ることにはならないと考えている。県有環境林を県としてどう考えているのかについては、20年間のローテーションで伐採し、木質バイオマスを生産の辺りで活用してもらい、需要と供給のバランスをとりながら、森林をしっかり管理していきたいと考えている。

●市民

元々、県が開発用地として取得をされたが、新都市建設の計画が頓挫して、現在、県有環境林という形で管理されている。将来的にもその土地は、山林として管理をされるのか。

◆兵庫県

皆さん、非常に関心のあることだと思う。今回、環境の視点で資源を活用するという形で、実証プロジェクトをスタートするが、元々の新都市建設の構想は立ち止まってしまっていて、この後、それをどういう形で持っていくかについて、我々の知る範囲では、まだ明確にはなっていない。ただ、だからといって、いつまでも山林を放置することも良くないので、資源の活用を図る形で事業にとりかかろうという発想で行う次第である。将来的に、頓挫した新都市建設の構想がどのように見直されていくかについては、その動きを見ながら、最善の対応をしたいと考えている。

●市民

先ほどの質疑があったCO₂循環の話で、木が育つ段階でCO₂を吸収して、それを伐採して燃やすことによって、マイナスになったCO₂が元に戻るということだったと思うのだが、マイナスになったものを燃やさなくてもそれを使えば、マイナスのまま残ると思う。わざわざマイナスをゼロに戻す必要はないかと思うがどうか。

◆兵庫県

木材を燃やさずに、家とか施設の建材や家具などに利用する方法も重要なポイントであると思っている。林業という面では、木材の利活用を進めていく必要がある。一方、山を若返らせ

るためには、ある程度伐採が必要であり、それを全て燃やさずに家具などに活用することもできないので、伐採した木を全部ではないがチップ化して活用する実証実験を行うというのがこの事業である。樹木を有効活用する方策の一部と考えてもらえると良い。

●市民

2年間実証実験し、展開していくということだが、30年ほど前、同じ場所で県が新都市建設の構想をしていた。西谷地区は少子高齢化が進んでおり、大阪神戸から1時間しかかからないこの地で、この4月から小学校の複式学級が始まる。住民は、何とか西谷を活性化したいと頑張っているのだが、負のスパイラルの象徴が複式学級やバスの減便などであり、次から次からと起きている状況である。そういう状況の中で、この2年間、せつかく事業の実証を行うのであれば、西谷の活性化にとって、どういうメリットをもたらせるのか、しっかり考えていただきたい。今の段階では、西谷にとってメリットが見えてこないで、2年間の実証を行う中で、地域にも報告をいただき、その中で、西谷地区のメリットに関しても伝えていただければありがたいと思う。その点に関して、地域の意見やアドバイスは惜しまないので、よろしく願います。

◆兵庫県

先ほど、話題に上がった遊歩道や椎茸の原木など、地域の方のご提案は本当に貴重であるので、これを機会にして、次のステップにつながることを、すぐ答えは出ないかもしれないが、こういう可能性があるのではないかということ、この事業の中で取り入れていきたいと思う。皆さんの知恵を借りたいと思う。持続可能な社会をつくるのが大きな目的であるので、そのエネルギー面での実験は行うが、エネルギー以外のことでも、例えば、多くの人が視察に来たときに、西谷の美味しいものを食べていただくとか、ツツジの花とか風景を楽しんでいただくとか、そういう部分も併せ持って、エネルギー以外の付加価値も出てくるようにつなげていけば、持続可能性が更に高まる。事業者も同じ考えだと思う。それは、全国的な動きであるので、木質バイオマス事業を実施しているところとの情報発信、意見交換もできる可能性も十分あると思う。西谷地区の強みを発信できる契機になっていけばいいなと考えているので、ぜひご協力をお願いします。

●市民

今日午後も同じ説明会がある。説明や質疑応答の内容の回覧などの予定はあるのか。

◆宝塚市

資料の説明は動画化し、質疑応答は文字で議事録にしたものを、市ホームページに掲載する。準備ができれば、ふれあいメールにてお知らせする。

●市民

ホームページもよいが、ホームページを見たこともない、見方も分からない人もいるので、ダイジェストでもよいから、紙の回覧で回してもらえないか。説明会に来ていない人に確実に伝えることも大事であると思う。

◆宝塚市

今のご意見も踏まえて、自治会連合会と相談して、周知方法を改めて検討する。

●市民

説明会を開催していただきありがたいと思うが、説明資料P15の予定では、3月に林内の状況確認と書いてあり、無理のある計画も入っている。今、年度末の3月であり、もっと早く、頻繁に地域住民の理解を得るための説明会等は開いてもらって、声を吸い上げていただき、地域の活性化につなげるように取り組んでいただきたい。このように要望する。回答は結構である。よろしく願います。

午後の部

●市民

事業者の方に質問する。現在、木質ボイラーの設置予定はどうなっているのか。木を切ると同時にボイラーが設置できる目途が立たないと、事業が上手く回らないように思う。

◆（一社）徳島地域エネルギー

現在、ボイラーの設置予定は2か所である。そのうち一箇所は神戸市北区のバイオマスラボである。一昨年、地球環境戦略研究機関（IGES）がこの地域のバイオマスボイラーの導入ポテンシャル調査を行っているため、そこで前向きな回答をされた事業者を中心に導入を進めていきたい。どれくらい伐採するかは、今後のボイラーの設置の状況と合わせて考えることになる。

●市民

通常、県の部長さんが、地域の説明会に出席するという事は滅多にないことだと思うので、兵庫県の熱意がよく分かった。感謝申し上げます。西谷で伐採した木材をチップにして、乾燥させる場所が神戸市北区という説明だったが、西谷地区の中で行うのは難しかったのか。

◆兵庫県

事業は地域の方々と一緒に考えて行うことが大事だと思っていて、西谷地区に伺うのは4回目である。直接、声を聞かせていただき、改善していくことを基本としていきたい。木質ボイラーのデモ機を設置し、研修で使い、燃焼実験などを行うバイオマスラボについては、事業者である（一社）徳島地域エネルギーは、当初は、西谷地区に設置したいと考え、進めていたと聞いている。しかし、当地区は、市街化調整区域であり、規制もある。一方、バイオマスラボの設置や実証実験は、国の関係団体の補助金を受けて行うものであり、期間の設定がある。規制や時間的な課題があつて、最終的には、市街化調整区域でない神戸市北区に決めたということである。バイオマスラボは県有林の木材を活用するものだが、一方、造園業などの剪定枝の活用も考えている。剪定枝は通常、一般廃棄物であるが、きちんと規格を決めて、利用価値のある有価物として買い取り、木質チップとしても活用することも、事業者は検討している。剪定枝を集積し、チップ化する土場が必要で、その場所は西谷地区で探しており、情報提供などのご協力をお願いする。

●市民

まちづくり協議会の環境部会として質問する。継続的な県有林の在り方は、補助金頼みの事業では継続性がないと思う。上手くいくときは、ずっと（一社）徳島地域エネルギーが実施してくれて、地域も一緒に参画できるのか。そして、駄目だったときはすぐ撤退するという考えなのか。2年先のことをどう考えているのか。

◆兵庫県

まず、昭和40年代ぐらいから、里山をエネルギー源にするということが止まってしまい、山が放置された状況である。だいたい20年ぐらいのローテーションで伐採し、山が長期的に循環できる姿にぜひ持っていききたい。そのためにも、事業としてまとまった量の木材を計画的に活用する必要があるという前提である。ただし、広葉樹林の木質バイオマス事業は、全国的にもまだ例がないので、2年間、国等の補助金を受けて、事業として成り立つかどうかを実験しようということなので、しっかり取り組んで、継続できるよう頑張りたい。

●市民

木質ボイラーは大型のものしかないのか。もう少し小型で地域の人が使えそうなものが、ヨーロッパなどではあるとも聞いているが、日本への導入はまだ先の話なのか。各家庭に、木質バイオマスのストーブなどが入るといった可能性はないのか。

◆（一社）徳島地域エネルギー

欧州、特にオーストリアでは、家庭で木質のボイラーやストーブが使われているが、下は10KWぐらいである。日本の家で必要な熱量がだいたい7KWぐらいであるので、家庭で使うとなるとコスト的に割高になってしまう。今後、国の支援がもう少しあればよいと思う。

●市民

2年間、実証実験するとのことだが、報告は2年後ということになるのか。

◆兵庫県

少なくとも毎年報告させていただきたいが、状況を踏まえて、状況報告したいと考えている。

●市民

事業を2年間する間に、地域の人々のマンパワーを求めるといったことはあるか。木を切る作業は誰がするのか、また、地域への求人はあるのか。

◆（一社）徳島地域エネルギー

なぜ、徳島から来て、事業を進めたいのかを申し上げますと、広葉樹林を活用する木質バイオマス事業を確立することに取り組みたいからであり、2年過ぎたら撤退するということは考えておらず、地域にもプラスになるよう展開したいと考えている。しかし、まだ伐採方法についても確定しておらず、危険な作業もあると思う。そのため、まずは熟練した職員2名で、大きくはせず、小さくスタートしたい。地域の若い人に参画してもらえたら良いが、すぐには無理だと思う。しかし、地域の人に伐採について伝えていきたいと考えている。この事業が成功する確率は50%以上あると思っている。

●市民

提案だが、林内に遊歩道ができたらよいと思う。まちの人は、ゆっくり歩く場所がほしいと

思うので、県有林の中を歩くことができれば、西谷の魅力がアップし、まちの人が来て、交流人口が増えればよい。よろしく願います。

◆兵庫県

午前中の説明会でも、西谷にどういったメリットがあるのかという質問もあった。ぜひ地域の皆さまからアイデアや提案をいただき、一緒に地域循環共生圏の事業を進めていきたい。地域循環共生圏の全国的なモデルにしていきたいと思ってるので、ご協力願います。